

定も追加した。

**問** 協定先以外の他市の方でも受け入れる考えはあるか。

**答** 東北大震災の際には、奈良県を始め幾つかの自治体が福島県などの被災者を受け入れており、現在でも県営住宅やURなどで75世帯、166人の方が生活をされている。本市でも市施設での受け入れを検討したが、入居してもらう適当な住居がなかったことから、住宅供給は断念した経緯がある。県営住宅等市内での避難者に対しては、教育委員会や福祉部と連携して生活支援を実施している。

**問** 市として、受け入れ可能な予測人数は。

**答** 事前に予測することは難しい。

**問** 相手側自治体とは、普段から良好な関係を構築する必要があると思うがどうか。

**答** 大変重要である。東北大震災に関連しては、先日も危機管理課職員が宮城県多賀城市からの復興派遣から帰ってきたばかりであり、積極的に災害支援を続けていくことで信頼を得られると考えている。**問** 3市協定は関西圏が中心であるが、もっと広域的な協

定は考えているか。

**答** 他府県との協定はなかなか進んでいない。今後も災害等対応に必要な協定を積極的に考えていきたい。

**問** 万が一の災害時に、協定先各自治体から避難しに來られなかった場合の方々の情報も共有できればと思うが、どのように考えているか。

**答** 多種、それぞれの協定を結ぶことによっていろんな情報を得ることができると思う。先日もラジオ大阪と情報発信という形ではあるが、協定を結んだ。そういうことをいろいろ重ねながら情報収集、また情報発信に努めたい。

### 広域連携によるイベントの可能性

**問** 市主催、または広域で行われているイベントはあるか。

**答** 橿原・高市広域行政事務組合によるラジオウォークを開催しており、約2千人規模の大会となっている。本市からの働きかけにより誘致に成功した。奈良県ウォーキング協会が実施している「大和路まほろばツアーウォーク」

などもあり、さらには民間の旅行会社やNPO主催のウォークが数多く本市を訪れている。サイクリング系のイベントとしては、平成24年度近畿

日本鉄道と共同で近鉄名古屋駅から橿原神宮前駅までのサイクリングを実施して、自転車約120台の参加があり、平成25年度は、堺市のサイクリング事業をサポートした。

**問** 「奈良マラソン」は県北部のイベントであるが、中南和を中心としたイベントについて、市の考えはあるか。

**答** 本市は、毎年恒例の「欽傍山一円クロスカントリー大会」を1月下旬に開催しており、全国各地からの参加をいただいている。この大会は本市単独の開催ではあるが、規模を拡大したマラソン大会などの運営となると広域的な連携が必要となる。飛鳥地方の市町村の連携を進めていくことが、今後住民の気運の高まりにも繋がると思う。この大会を発展継承する形でマラソン大会に繋げていければと考えている。また、橿原運動公園も多方面から注目されており、県の中学校駅伝大会やリ

レーマラソン等の来場者が見込めるイベント開催について検討に入っている。

**問** 観光地を利用した自転車レースを開催する考えは。

**答** 交通規制された一般道路を使用したレースになると思われるが、市内の道路、鉄道事情を鑑みると、開催については今のところ可能性は低い。しかし、将来の開催に向けた可能性を探るためには、まず周囲市町村、また道路管理者である国、県の理解をいただいた上で、気運が盛り上がった段階で協議したい。

**問** 本市では新しいホテル建設の予定があり、宿泊客を増やす努力が必要である。1回限りのものではなくて、毎年確実に開催されるようなイベントが必要である。常連客ができるようなものをつくってほしい、いつか住みたい、暮らしたいと思えるまちになるのではと思うが、市の考えは。

**答** 自転車競技についても、様々な規模の競技がある。今後、NPOを始めとした広い範囲から開催の結果や評価等を調査して可能性について検討したい。



自転車レース

### 一般質問 西原正克 (日本共産党)

#### 地域公共交通空白地帯対策

**問** 本市は平成23年1月7日に橿原市地域公共交通会議を設置したが、その設置の目的は何だったのか。

**答** 県内の路線バスの輸送人員は、減少傾向にあり、厳しい状況である。本市でも平成4年以降、5路線が廃止となった。このような路線バスの一部廃止により、特に高齢化率の高い地域である南西部地域において公共交通空白地帯が出現し、また大型商店周辺